

2018 スーパーGT 第2戦  
富士スピードウェイ  
2018年5月3日(木)、4日(金)

## 予選

来場者: 31,300人

天候: 曇り時々晴れ

2018 スーパーGT シリーズ第2戦は、舞台を富士スピードウェイに移してゴールデンウィークの3日に予選、4日に決勝を行う。前夜からの低気圧によって朝まで風雨に見舞われた。練習走行の時間帯には、サーキットが濃霧に包み込まれて、スケジュールは大幅に遅れ、変則的な予選セッションとなった。そして、au TOM'Sは、4番手グリッドを得て、決勝に臨む。



- 今大会は、世界耐久選手権の開幕戦とスケジュールがバッティングしてしまい、中嶋一貴が欠席。代わってジェームス・ロシターがステアリングを握ることとなった。
- 午前中に予定されていた1時間45分の練習走行は、濃霧のために中止になり、その後、霧が晴れてから30分間の練習走行と20分間の予選が行われた。
- 予選のタイムアタックは、関口雄飛が担当した。
- 2セットのタイヤの使用が許され、まず、1セット目でマシンのセットアップを確認。一旦ピットに戻って若干のセット変更を行った後に2セット目のタイヤを装着してアタック、4番手のタイムをマークした。

DRIVER	Car No.	POSITION	TIME
ジェームス・ロシター 関口 雄飛	36	P4	1:28.229
天候	曇り時々晴れ/ドライ		
気温/路面温度	気温: 21-22度C	路面温度: 34-35度C	

## ジェームス・ロシター(36号車ドライバー)



「今回、一貴欠場のピンチヒッターとして声をかけてもらって、できるだけのことをしたいと思っている。しかし、濃霧の影響で走行時間が大幅に短縮されてしまい、十分な走行ができなかった。練習走行で2周だけ走った。まあ、問題はないと思う。今年 LC500 でレースをするのは初めてだけれど、コーナーへの進入、立ち上がり共にとても安定している。雄飛が頑張ってくれて4番手からのスタートなので、是非優勝をしたい。それがチャンスを与えてくれたチームへの最大の貢献だ」

## 関口 雄飛 (36号車ドライバー)



「前戦、岡山の開幕戦では、思うようなドライビングができなかったのが、約1ヶ月のインターバルの間にいろいろ見直して、今回に臨みました。短い練習走行と変則的な一発の予選でしたけれど、まあ、満足できる走りができただけかなと思います。1セット目から2セット目にタイヤを変えた時にセットアップも変更してもらって、それによってタイムをかなり削ることができました。決勝では、勝ちたいですね」

## 東條 力 (36号車エンジニア)



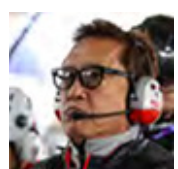
「走行できないことには、マシンの状態を計り知ることができないから、あの濃霧は本当に困りました。しかし、結果としてレクサス勢が上位に戻って来ているので安心しました。霧が晴れてからは、気温も路面温度もアップして、タイヤがちゃんと作動してくれて、速さも戻って来た。しかし、明日の決勝は気温が低いという情報があるので、少し心配ですね。ここまでの流れが良いので、これを持続して結果を出したいですね」

## 伊藤 大輔 (36号車チーム監督)



「もちろんポールポジションを取りたかったけれど、2列目のグリッドだから、勝ちを狙える位置からのスタートだ。このチャンスを結果に結びつけたい。初戦の岡山では苦労したけれど、関口もかなり慣れてくれたし、それが、今回の結果にも表れている。彼のフィードバックによってマシンのセットアップを変えてタイムアップもできた。ジェームスは、言うなれば、トムス・ドライバーの1人だから、全く問題ないと信じている。明日は、最高の結果を出したい」

## 館 信秀 (総監督)



「今回の予選は、関口が頑張ってくれた。そしてジェームスが一貴のピンチヒッターでステアリングを握ってくれるので、まったく心配していない。十分に勝てる位置からのスタートなので、期待している」

# LEXUS TEAM au TOM'S

決勝

来場者: 55,000 人

天候: 晴れ時々曇り

2018 スーパーGT 第2戦、FUJI GT 500KM RACEにおいて au TOM'S チームの 36 号車は、序盤から積極的なレースを展開。110 周レースの中盤には 3 位を走行したが、結果的に 4 位でフィニッシュした。



- 中嶋一貴のピンチヒッターとしてステアリングを握るジェームス・ロシターがスタートドライバーを担当。序盤から 3 位争い展開した。
- ロシターは、4 位を走行。33 周してピットイン、関口雄飛にバトンタッチした。
- 関口は、セカンドステントで好走、3 位を確保しつつ、39 周してピットイン。再びロシターへマシンを託した。
- 各車が 2 度目のピットインを終えた後の順位は 5 位。最後まで追撃の手を緩めないロシターは、ラスト 2 周となった 108 周目に 4 位に上がり、ゴール。8 ポイントを得た。

DRIVER	Car No.	Race Result / Fastest Lap
ジェームス・ロシター	36	1:31.016
関口 雄飛		1:31.641

天候	晴れ時々曇り/ドライ	
気温/路面温度	気温: 18-17度C	路面温度: 36-23度C

## ジェームス・ロシター (36 号車ドライバー)

「まずは、一貴の代役として起用してくれたチームに感謝している。昨年までドライブしていたマシンだし、スタッフとも信頼関係を築いているので、まったく違和感はなかったけれど、今回は、天候により練習走行の時間も少なくセットアップを詰めきれなかった部分があった。レース中は、ヘイキ(コバライネン)と僅差のバトルを展開できたし、ものすごく楽しめた」

## 関口 雄飛 (36 号車ドライバー)

「今回は、セカンドステントを担当しました。開幕戦における反省点をここ富士では改善できて、何とか納得のできるドライブができたと思います。マシンとタイヤのマッチングにもだいぶ慣れることができたので、第 3 戦以降もこの調子で行きたいですね」

## 東條 力 (36 号車エンジニア)

「表彰台を逃したのは残念ですが、結果をみると、ウェイトハンディ順のフィニッシュランキングかなと。今回の最大の収穫は、なんと言っても関口選手がマシンに慣れてくれて、トップとまったく遜色ないペースでセカンドステントをきちりと走ってくれたことですね。次戦は一貴選手も帰ってくるし、鈴鹿で行われた事前テストでも結果が良かったし、マッチングの良いタイヤも選択できているので期待してください」

## 伊藤 大輔 (36 号車チーム監督)

「スタートポジションと同じフィニッシュ結果となったけれど、内容の濃いレースだった。ジェームスからも色々なフィードバックを得ることができたし、関口も開幕戦からの短いインターバルで、データを十分に分析してくれて、今回はとても良いパフォーマンスを発揮してくれた。次戦の鈴鹿ではトップ争いを演じられるように頑張ります」

## 舘 信秀 (総監督)

「トムス・ドライバーのひとりであるジェームスがスポット参戦ながら、とても良い仕事をしてくれた。さすがだ。そして今シーズンからチームに加入した関口もだいぶ慣れてきたようだ。結果も良くなってきているので鈴鹿では、表彰台の頂点を狙いたい」

※次戦は、5 月 19-20 日に三重県の鈴鹿サーキットにてシリーズ第 3 戦が開催されます。

